

川原川

かわ はら がわ

川原川は前原市を流れ、瑞梅寺川に合流する河川です。
沿川には伊都国歴史資料館やファームパーク伊都国などがあります。
伊都国歴史資料館には、「魏志倭人伝」で邪馬台国への
途中にあると記されている「伊都国」に関する遺物が展示されており、
古代史ロマンを求め多くの人々が訪れています。



川原川の歴史資料館付近はブロック積みによる護岸で河川へのアプローチが困難な状態にありました。このため親水性の向上を目的として「ふれあい護岸」事業により、平成元年から練石積みの低水護岸、高水敷、階段ブロック・植栽ブロックを使った高水護岸などの整備を行いました。植栽ブロックには、市との協議を通して近辺に自生するヒガンバナを植えました。

この事業が行われたのは、河川整備のニーズが親水型から自然環境保全型へと移行していった転換期であり、整備を進める中で魚道・魚巢ブロックの追加、低水護岸を単調な直線から変化のあるものへ、高水護岸を植栽ブロックから緩やかな土羽へ、高水敷を脱色アスファルト舗装から芝張へといった変更を加えていきました。また、市の方も連動し対岸に農村公園、両岸を結ぶ橋梁の整備を行いました。



川原川は子供達にとっても、
親しみやすいふれあいの川です。

川原川には自生する草花がいっぱい
季節毎に楽しませてくれます。





伊都国歴史博物館

常設展示場には、伊都国王墓の出土品を中心に遺跡の模型や鏡のレプリカがあり、大型スクリーンには、伊都国の当時の様子を映像で再現しています。古代のロマンと伊都国探訪を十分に満喫できます。

勾玉・管玉・切子玉(砂魚塚古墳)



横穴式石室から出土したこれらの玉類は、首飾りとして使われていました。
勾玉はヒスイ、管玉は碧玉、切子玉は水晶で作られています。

鬼瓦(伝末永)

末永で出土したと伝えられる鬼瓦。吉備真備が指揮し築造された怡土城との関係があると言われています。



人物線刻版(上籙子遺跡)

15センチほどの板に刻まれたシャーマンの姿。その顔には刺青を施し、顔には羽飾りをつけています。



素環頭大刀(上町向原遺跡)

全長120cmを測り、日本でも4番目に長い素環頭大刀として知られています。この頃の丸い環頭を持つ大刀は中国製で海を越えて持ち込まれたものです。

〔伊都国歴史博物館ご利用案内〕 福岡県前原市大字井原916 TEL 092-322-7083

開館時間/9:00~17:00(入館は16:30までです)

休館日/月曜日(月曜日が休日の場合はその翌平日)、年末年始

入館料/通常 一般:210円/小中高生:100円/65歳以上:無料



川は太古の昔から人間に限らず、魚や植物、昆虫などの生命を育んできました。川はまさに「いのちの故郷」です。

なかでもこの川原川は、その周辺から弥生時代に栄えたとされる伊都国の数々の遺跡や古墳が発見されており、古代からの生命の息づきを、現代の私たちに伝えてくれています。

それから幾千年を経た今の川原川は、水遊びの季節になると、学校を終えた子どもたちの格好の遊び場となり。休日には兩岸の歴史資料館、ファームパーク利用者の憩いの場となって、人々に自然と生命の物語を語っています。

河川紀行
Vol.5

河川紀行：発行/福岡県河川協会

<http://www.fukuoka-pref-kasen.jp/kasenkyokai>

info@fukuoka-pref-kasen.jp